

二〇〇八京都宣言

2008 Kyoto Declaration

京都発、未来の地球へ

2008年サミットでは、地球環境問題が大きなテーマとなります。

「京都議定書」が採択されたこの地において、

重要な関係会合である外相会合が開催されることは、たいへん意義深いことです。

私たちは、この機会を大切にし、

京都から世界に何を伝えるか、次の世代に何を残すべきか、

皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

2008年サミット外相会合京都支援推進協議会 Kyoto Committee for 2008 G8 Foreign Ministers Meeting

京都府、京都市、京都商工会議所、京都府議会、京都市会、京都府市長会、京都府町村会、京都府市議会議長会、京都府町村議会議長会、京都経営者協会、社団法人京都経済同友会、社団法人京都工業会、京都府中小企業団体中央会、京都商店連盟、社団法人京都銀行協会、社団法人京都青年会議所、財団法人国立京都国際会館、財団法人京都府国際センター、財団法人京都市国際交流協会、社団法人京都府観光連盟、社団法人京都市観光協会、財団法人京都文化交流コンベンションビューロー、社団法人日本ホテル協会京都支部、京都府旅館生活衛生同業組合、京都仏教会、京都府神社庁、財団法人京都文化財団、財団法人京都市芸術文化協会、財団法人京都伝統芸術振興財団、京都伝統工芸協議会、京都料理組合、社団法人京都府バス協会、京都タクシー業務センター、特定非営利活動法人京都地球温暖化防止府民会議、特定非営利活動法人きょうとNPOセンター、財団法人大学コンソーシアム京都

二〇〇八 京都宣言

「私が知っている世界でもっとも美しい三つの都市、それはローマとダマスカスと京都です。」

一九二〇年代の駐日フランス大使、詩人ポール・クロードルは京都でそう語りました。三方を丘と山に囲まれ、そこから流れ出る清冽な川が音たてて行くなかに、王朝以来千二百年の歴史をいとなみ、宗教と文学と藝術をつちかってきた都、それが京都だと、この大詩人は讃えたのです。

それから八十年後、京都が昔のままだとはもちろん申せません。いまや、いくつもの先端産業がこの地に根づいて発展し、幾十もの大学や研究機関が日々創造の活動をつづけ、人口は増加の途をたどりました。だが、それでも、古都の山水はなお美しく、数百年来の伝統産業はここにもものづくりの洗練を守りつづけ、寺社の祭礼も四季ごとに昔のままにつつましく、あるいは華やかに、とり行われております。そしてこのゆたかな歴史に学んだ景観美への矜持も失うことなく持ちつづけています。

世界最古の長編恋愛小説『源氏物語』がこの都の一隅で一人の女性(紫式部)によって書かれてから、今年でちょうど一千年になりますが、その物語の底に流れる「ものものはれ」の感情と思想は、いまなお京都の日々の暮しのいづこかに息づいているのかもしれない。「ものものはれ」とは、人間を万物の中心に押し立ててきた近代思想とは異なっており、むしろ逆に、人間を自然とともにうつろう不安で不確かな存在と見なす「無常」の思想です。地球環境と人類の共存の危機を訴えた一九九七年の「京都議定書」の背後にも実はこの思想が生きていたと言ってよいのでしょう。

あれから十年、地球環境はいよいよ危機的な状況にあります。今こそ「京都議定書」にうたわれた尊い思いをさらに発展させ、あらゆる国や地域と連携して、人々の日々の暮らしから社会、経済のしくみに至るまでを安らかで持続可能なものに変えていく努力を重ねなくてはなりません。源氏物語千年紀と重なったG8京都外相会合を契機に、私たちは京都議定書採択の地としての誇りをもって、世界の人々とともにこの地上に自然との共生、多様な文化の平和共栄を実現してゆきたいと願います。そして、そのためにこそこの地の長い歴史につちかわれた智慧と寛容の心を働かせてゆくことを決意し、京都から世界に向けてここにその決意を表明いたします。